チョウ目テングチョウ科

## テングチョウ

青森県：D
環境庁：該当なし

三浦博所蔵

はねの長さは23㎜位で、頭部の先端から突き出た顔の一部が高い鼻の様に見えることから天狗の名がつけられました。系統的に古い種でアメリカの第3紀層から化石として発見されています。国内全域に分布しますが、県内では多くありません。1970年代までは県南地方で毎年観察されていましたが、近年はまれにしか見られません。食樹のエゾエノキは里山の雑木林に多く、スギ植林などで雑木林の伐採が進んだためと考えられています。

三　浦

チョウ目タテハチョウ科

## オオウラギンヒョウモン

青森県：A
環境庁：絶滅危惧Ⅰ類

室谷洋司所蔵

ヒョウモンチョウの名は、橙色の地色に黒斑（こくはん）が動物のヒョウの紋のように入ることからつけられました。雌はこの仲間では最も大型で、はねの長さは40㎜位になります。本県が北限の希少種で、30年位前までは県内各地に生息していましたが、近年はまったく見かけなくなりました。

生息地は里山の日当たりの良い草原でしたが、ブッシュ化が進んだことや畑・果樹園・スギ植林地などに変わって草原が無くなったことが原因と考えられています。

三　浦

チョウ目タテハチョウ科

## ホシミスジ

青森県：D
環境庁：該当なし

撮影：岩手県　白山一訓撮影

はねの長さは29㎜位で、黒褐色の地色に3条の白帯があるミスジチョウの仲間です。本種には裏面基部に星状に黒点があることが特徴です。本州以南に分布して本県が北限となります。県南地方の特産種で、シモツケ類の自生する明るい疎林や人家に植えられたユキヤナギ・コデマリなどの庭木に発生しています。人里に近いため宅地造成・伐採などの可能性があり、北限の種を守るため発生地を大切に保全していく必要があります。

三　浦



チョウ目タテハチョウ科

## オオムラサキ

青森県：C
環境庁：準絶滅危惧

雄　三浦博撮影

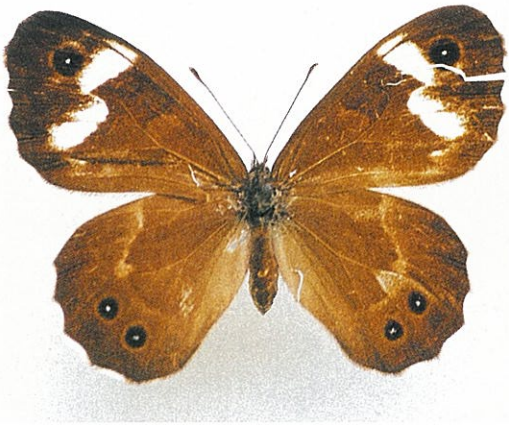
「国蝶（こくちょう）」として日本を代表する大型のタテハチョウで、紫の幻色に輝き、白・黄・赤色の斑紋（はんもん）が点在する美しい種です。飛翔は風を切るはばたき音が聞こえて来るほど雄大で、滑空旋回するときは小鳥と見間違うほどです。大型で行動範囲が広いので、食樹のエゾエノキを含む広い雑木林が必要です。最近では雑木林が少なくなり、生息できる環境が少なくなっています。ブナ林の保護のように雑木林も大事に守っていく必要があります。

三　浦

チョウ目ジャノメチョウ科

## ツマジロウラジャノメ

青森県：A
環境庁：該当なし



三浦博所蔵

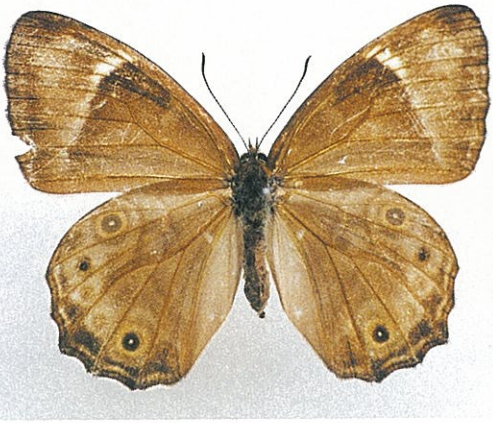
ジャノメチョウ科の特徴は眼状紋（がんじょうもん）と呼ばれる目玉模様があることです。本種は眼状紋（がんじょうもん）と前ばねの先に2個のいなづま状に連なる白い紋があります。山地の凝灰岩などで構成された湿潤な断崖に生息しています。近年はまれに見られるに過ぎません。生息のためにはえさ植物が生育していることと周辺が広葉樹林で半陰地のデリケートな環境が必要とされます。近年、植林のために伐採や林道工事などが進んで生息環境が失われています。

三　浦

チョウ目ジャノメチョウ科

## ヒカゲチョウ

青森県：D
環境庁：該当なし



三浦博所蔵

はねの長さは30㎜位で暗褐色の地味な色彩をしています。ジャノメチョウ科特有の大きな眼状紋（がんじょうもん）が後ろばねの裏面で目立ちます。日本の特産種で、本県が北限のとてもまれな種です。県内では新郷村迷ヶ岱・十和田湖北岸・奥入瀬川沿いの山中で見つかっています。

一般に南の暖かい地方では平野部を生息圏としていますが、県内では山地に限られていて、生態も良くわかっていません。これから調査が必要なチョウです。

三　浦

チョウ目ヤガ科

## ミツモンケンモン

青森県：A
環境庁：絶滅危惧Ⅰ類

岩手県産　　土井信夫所蔵

開張35㎜内外。前ばねは黒褐色で円形の3対の黄白色紋（もん）を持ちます。国内の産地はきわめて限られている種類です。幼虫の食樹はクロツバラであることが最近になって確認されました。本県では1991年倉石村駒袋でライトトラップに入った1雄が初めて確認されましたが、その後は発見されていません。本県で確認された生息地は倉石村のみですが、産地では食樹の減少などで生息が衰退していると思われます。

山　内

チョウ目ヤガ科

## ウスキモンヨトウ

青森県：D
環境庁：該当なし

青森県立郷土館所蔵

開張25㎜内外。前ばねは淡い褐色で、その先端が多少突出しています。本種は、沿海州、北海道の東部から青森までの湿地帯に分布します。個体数はとても少なく大変貴重な種類です。本県からは東通村小田野沢から1993年8月に1個体の雄が発見され、本州で初めて確認されました。本州では今のところ青森県での記録しかなく、国内では本県が南限となります。

山　内

チョウ目ヤガ科

## ノシメコヤガ

青森県：A
環境庁：絶滅危惧Ⅰ類

岩手県産　　土井信夫所蔵

開張35～41㎜内外。はねは白色で、前ばねの翅底部と外縁部、後ばねの先端に褐色を帯びます。国内では本県と岩手県からの記録しかなく、詳しい生態も不明で産地もとても少なく、希少な種類です。1930年7月に、当時板柳町にあった県立農事試験場園芸部板柳苹果研究所の誘蛾燈に入っていたのが国内最初の記録です。その後も、県内では1952年黒石市砂森、1975年黒石市境松からの記録しかありません。採集地はいずれも農村地帯や都市近郊です。

山　内

チョウ目シャクガ科

## クロフカバシャク

青森県：C
環境庁：準絶滅危惧

岩手県産　　土井信夫所蔵

開張30㎜内外。本亜種は、岩手県繋温泉で発見された1雄で名前が付けられたもので、岩手県以外では本県の平賀町唐竹、弘前市和徳町で記録されているだけの希少種です。本亜種の幼虫はヤマナラシ属を食べますが、岩手県ではゴルフ場の植栽ポプラで確認されています。植栽ポプラが緊急避難的食樹になりますが、個体数や生息確認地が少ないだけに生息地でのヤマナラシ属の減少が心配されます。

山　内

### ②昆虫類以外の無脊椎動物

《概要》

昆虫以外の無脊椎動物には、貝やミミズ、クモなど、異なったグループに属するたくさんの種類が含まれます。ここでは、陸上と河川や湖沼などの淡水に生活する種類を対象にしています。県版レッドデータブックのための希少種を選び出すにあたっては、1）環境庁版レッドデータブックに掲載されていて、かつ青森県に分布すること、2）その種にとって本県が分布の南限や北限になっていたり、分布地が局所的でその一部が県内にあること、および、3）個体数が大きく減少していて、今後の生息が危ぶまれていることを考慮しました。結果として、扁形動物門2種、触手動物門1種、節足動物門クモ目1種、ホウネンエビ目1種、エビ目2種に、軟体動物門貝類の9種を加えた計16種類を選定しました。これらはいずれも移動能力が低く、限られた環境にしか住めなかったり個体数が少ない動物です。さらに、水生の種類は水の中という限られた環境にしか生活できないので、水質やえさ、捕食者などの環境にわずかな変化が起こっても、個体数が減少したり絶滅につながることが懸念されます。

本県に限ったことではありませんが、無脊椎動物の調査研究はまだまだ不十分です。今回の選定種が16種類と、無脊椎動物の種数に比して極端に少ないのは、絶滅が危惧される種類が本当に少ないのではなく、調査がなされていないために希少性の程度を判断できない種類が大部分だったからです。今後、さまざまな種類について、分類や分布をはじめとする基礎的な情報を蓄積していかなければなりません。また、このような状況のもとで生物多様性を保全していくためには、まだよくわかっていない種類も多いということを念頭において、多様性を育くんできた環境そのものを保全していくという意識が必要です。

ウズムシ類三岐腸目プラナリア科

## トウホクコガタウズムシ

青森県：C
環境庁：該当なし

石田幸子撮影

体長10～12㎜、1対の眼を持つ灰褐色で小型のプラナリア。体の前端は丸みを帯び、耳葉はありません。主に産卵によって増え、ナミウズムシより再生能力が劣ります。弘前市内で初めて発見された貴重な種です。本県以外では、山形県新庄市から記録されているだけです。冷たくて清らかな泉や湧水、渓流にのみ生息していますので、水が枯れたり、汚染されたりするといなくなる心配があります。

石　田

ウズムシ類三岐腸目デンドロシーラ科

## キタシロウズムシ

青森県：C
環境庁：該当なし

石田幸子撮影

体長20～25㎜、乳白色で1～数対の眼をもっています。乳白色のプラナリアなので、捕ったえさの色によって腸が色づいて見え、三つに枝分かれした腸が体中に広がっている様子がよくわかります。北海道と本県（津軽半島、下北半島、黒石市）にしか分布していなく、秋田県以南ではまだ発見されていません。近年、水枯れによって分布がせばめられ数も減ってきていますので、自然環境の変化が心配されます。

石　田

原始腹足目ヤマキサゴ科

## ハコダテヤマキサゴ

青森県：C
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

大八木昭撮影

殻径5㎜前後のそろばん玉に似た形をした小型の陸貝です。北海道及び本県と秋田県の高山に分布する北方系のものです。環境庁は以前、下北半島に生息するものを、絶滅のおそれのある地域個体群としてランク付けしていました。東通村の石灰岩山地の桑畑(くわはた)山には以前は多く見られましたが近年はあまり見られません。下北半島のブナ林の林床にも生息しています。津軽半島の山中でも見つかっています。

大八木



中腹足目ミズシタダミ科

## ミズシタダミ

青森県：D
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

大八木昭撮影

殻径3.5㎜前後の平巻(ひらまき)状の淡水貝で、本県、北海道、中国北部、シベリアなどに分布する北方系のものです。本州では下北半島の沼に生息することが知られています。浅い湖などの底にすみ、底質や水生植物の好みはないようですが、下北半島の沼では、水生植物のはえていないところに見られます。水の流入あるいは流出水路の乏しい浅い沼なので周辺から供給される水質の悪化が生息に影響すると考えられます。

大八木

中腹足目イツマデガイ科

## シモキタシブキツボ

青森県：ＬＰ（下北半島）
環境庁：準絶滅危惧

大八木昭撮影

下北半島の北部の山地で湧水や沢水の流れるところに生息します。東通村のものが1982年に新亜種として発表されました。

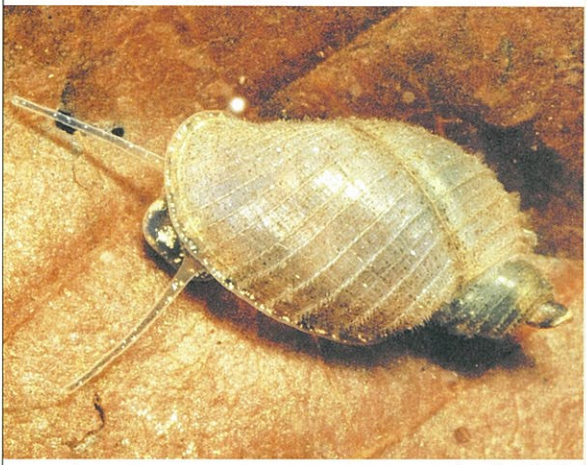
殻径9㎜前後の巻貝で水中やしぶきのあたる陸にすみ、枯れかけた植物体や落ち葉などを食べます。森林の伐採や山林道路工事などで沢の流れが分断されたりして生息域が破壊されています。近似種は福井県、新潟県、秋田県など日本海側に見られます。シブキツボとしてはいちばん北に分布する種です。

大八木

基眼目ヒラマキガイ科

## ヒダリマキモノアラガイ

青森県：Ｄ
環境庁：絶滅危惧Ⅰ類



大八木昭撮影

本県や長崎県など数県にしか生息が知られていません。県内では平舘村の山中の沼に生息しています。殻径6㎜前後の左巻きの淡水貝できれいな沼の水底の落ち葉などに付着しています。平舘村の沼は県自然環境保全地域に指定されていますが、金魚などがもちこまれており、生息環境が変化してきています。この種は生息地から突然消滅する傾向があるといわれています。ある程度汚れた池沼にもすめるモノアラガイとは異なり水質の変化に敏感なようです。

大八木

柄眼目キセルガイ科

## エゾコギセル

青森県：C
環境庁：絶滅危惧Ⅰ類

大八木昭撮影

蝦夷（えぞ）の小さなキセルガイという名で、煙草（たばこ）をすうときのキセルにみたてています。自然のよく残された森林にすむ殻高10㎜前後の北方系のものです。北海道と本県、秋田県の高山にも分布しています。県内では下北半島の山地での生息のほか、最近になって八甲田山地、津軽半島、赤石川流域でわずかながら確認されています。太い樹木があるところでないと見つかりません。樹皮上で生活しているので、大きな木が切られるとすみかを失うことになります。

大八木

昆虫類以外の無脊椎動物

柄眼目オナジマイマイ科

## ナンブマイマイ

青森県：ＬＰ（下北半島）
環境庁：準絶滅危惧

大八木昭撮影

殻高19㎜前後、殻径30㎜前後の丈夫な殻で殻表面のすじの美しい左巻きのマイマイです。ムツヒダリマキマイマイ種群の中で東北端に生息する種で、岩手県と本県にまれに生息するとされています。本県のものはやや扁平で、東通村の石灰岩地帯を中心に分布しています。その中でも分布範囲は限られており、アオモリマイマイが多く見られるところには分布していません。生息個体数も多いとは思われません。

大八木